

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	下関市こども発達センター はたふ園		31人中31名回答		公表日	8年 2月27日
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	26	5	<ul style="list-style-type: none"> ・1人～2人を連れて廊下や空きスペースに移動して保育することがある。 ・4クラスで、ホール、戸外、プール、空き部屋等、時間を決めて使用し、空間の有効活用に努めている。 ・狭い部屋ではあるが、構造化をし、個別空間の確保や、集中するための環境作り、お子様にわかりやすい空間作り（環境調整）に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練スペース（部屋）が少ない。 ・1つの部屋に10人のお子様が入り、職員が4人いると圧迫感があり子ども同士の距離が近くなりトラブルになる。 ・年長児が多いクラスになると体格や動きも成長していくので10人クラスでは狭く感じる。 <p>→利用者数や利用定員に対する施設設置基準は満たしていますが、構造化しており部屋が狭く感じているかもしれません。今後も空き部屋を各クラスで工夫しながら、子どもさんの様子に応じて、個別対応や小集団活動の空間として利用していきます。</p>	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	27	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日々、出席者を4クラスで確認し、適切な配置で療育にあっている。お子様の様子（個別対応等）で人が足りない時には連携しあい、臨機応変に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し日々余裕のある人員配置を希望する。 <p>→職員の急な休みなどで人員の確保が難しいときでも、他クラスの職員がヘルプに入ったりフリー職員を配置し、しっかりと対応していきます。</p> <p>→人員が不足している場合は即座に求人して職員の確保に努めています。</p> <p>→職員がそれぞれ療育の質を高めていけるよう、自己研鑽しながら適切な療育にあたっていきます。</p>	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	29	2	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化し、お子様にわかりやすい空間づくりに努めている。 ・30年前に施設ができたため、時代に即していない箇所もあるが、バリアフリー・合理的配慮等の工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害のお子様に対してのコミュニケーション不足、情報伝達に不足あり <p>→個々にあったコミュニケーションツールの選択や使用に努めながら、遊びや活動の場面でやりとりの機会を増やしていきます。</p> <p>→補聴器の使用やコミュニケーションツールの獲得に向けた支援について、保護者の方や言語聴覚士、関係機関と情報共有し、携わる職員にも周知しながら支援にあたります。</p> <p>・バリアフリー化のためだが、手すりに登る子どもが多く危ない</p> <p>→子どもさんの特性上高い所を好む傾向がありますが、危険が無いよう引き続き見守りながら環境を整備していきます。</p>	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	25	6	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化で施設の劣化や汚れが気になる箇所は多々あるが、毎日の清掃、消毒、遊具の点検など行い、安全で清潔感のある安心な環境づくりに力を入れている。 ・構造化し、お子様にわかりやすく、活動に集中して取り組める空間づくりを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内、トイレの清掃が行き届かない。 ・玩具の衛生に関しても気になる。 ・老朽化の為改善してほしい所がたくさんある。 ・トイレが狭い、子どもさんの排泄時間が重なり足りない、スペースも狭い。臭いなども改善してほしい。 ・老朽化、修繕箇所が多い。 ・老朽化もあり、部屋の鍵（窓、扉等）が緩くなっているところがある。」 <p>→不具合が出た場合は即座に修繕等し対応していきます。</p> <p>→古い建物の為、部品交換などが難しいことも多くありますが代替品などで修理していきたいと思えます。</p> <p>→日々の清掃で清潔な空間を保つとともに、専門業者さんの手も借りながら、環境整備に努めていきたいと思えます。</p> <p>→子どもさんが毎日使用する玩具や遊具なども衛生面に気を付け、特に感染症の流行期には消毒などもしっかりとっていきます。</p>	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	下関市こども発達センター はたふ園		31人中31名回答		公表日	8年 2月27日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	29	2	・他クラスとも声をかけあいながら空き部屋の利用をしている。	・空き部屋が少ないため個別対応が難しいことがある。 →38名のお子様が通園しているため、お子様の様子によっては、個別空間の確保が難しいこともあるが、なるべく譲り合いながら使用できるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	27	4	・毎月の職員会議で、随時意見交換を行っている。 ・リーダーミーティングやクラスミーティング等で多くの職員が参加できる機会を設けている。	→時間差出勤の職員についてもできるだけ療育前後の話し合いの機会を設けていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	30	1	・評価表を全保護者に配布し分析、改善につなげている。	→引き続き全職員に周知できるような機会を設けていきたいと思います。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	30	1	・毎月の職員会議において随時意見聴取し必要に応じ対応している。	・各クラスやパート(クラス、フリー)小集団での意見、感想を伝え合う時間が年に数回あるとよい。 →パート職員ともしっかり意見交換できるようにクラスミーティングの機会を多く設定していきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	31	0	・令和5年12月の受審結果により改善されており令和8年にも受審予定。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	31	0	・正規職員は勿論、非正規職員についても積極的に参加している。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	31	0		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	31	0		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	31	0		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	30	1	・会議等で個別支援計画を職員間で共有し、支援計画や、5領域の支援プログラムに沿ったきめ細やかな支援を心がけている。	・計画を立ててはいるが「沿った支援」という点では足りていないところもある。 →お子様にかかわる全職員が支援計画を把握し、個々の発達を意識しながら、計画に沿った支援ができるようにしていきます。 →定期的に評価し、次の支援目標を計画して本人にあった療育支援を行います。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	28	3	・発達検査等や特性の理解、日々のかかわりの中でお子様の行動をアセスメントし、情報を職員間で共有しています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	31	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		下関市こども発達センター はたふ園				31人中31名回答		公表日 8年 2月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	29	2		・特定の職員が立案し、チームで共有している。 ・クラス職員で意見を出し合いながら立案し療育にあたっています。			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	30	1	・個々の興味に合わせた活動の設定を取り入れながら、固定化しないよう多様な活動を多く設定している。				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	30	1	・個々の興味や特性、社会性の発達に合わせて個別、小集団などの活動を取り入れ支援計画に盛り込んでいる。				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	31	0					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	28	3		・少しの時間があるが不足はしていると思う。 →勤務時間によってはその日の打ち合わせが難しいことがあるが、支援の振り返りや情報交換、共有の時間を確保していきます。 →時間が確保できない時にはホワイトボードやミーティングノートを活用していきます。			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	30	1		・徹底するまではしていない →できる限り記録の記載、支援の検証、改善に努めていきます。			
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	31	0						
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	31	0					
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	30	1	・自立支援協議会などで情報を交換、共有しており連携ができる体制を整えている。	→引き続き地域の他機関と連携をとっていきます。			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	30	1	・移行に向けた支援（見学同行や情報共有）を行い、インクルージョンに向けた取り組みをしている。				
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	31	0					
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	31	0	・児童発達支援センターの機能強化の取り組みとして、自立支援協議会の参加、地域の事業所との連携を図るための通所分科会の開催、質の向上に向けた研修会の開催等を行っている。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	31	0	・センター職員を対象にし、外部講師を招いた定期的な研修会や、専門機関からのコンサルテーションの実施し、また外部研修にも参加し、質の向上に努めている。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	30	1	・特定の職員のみ参加している。	→現在は特定の職員が参加しているが、人員が確保できれば多くの職員が参加できるようにしていきたい。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。								

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	下関市こども発達センター はたふ園		31人中31名回答		公表日	8年 2月27日
チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	17	・就園を希望される子供さんに関しては交流等を実施している。 ・遠足や、園外保育などで地域の子どもさんと交流できる機会を作っている。	・あまりない。 →定期的な実施はできていないが、子どもさんの発達に合わせて無理なく交流の機会を作っていきたい。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	31	0	・連絡帳や電話連絡、面談などで子どもさんの状況や課題について情報交換をして共通理解ができるようにしている。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	30	1	・発達の特性、構造化、感覚統合、言語等の研修会を実施している。 ・父親、きょうだい、祖父母などを対象にした研修会も開催している。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	30	1	・仮入園の契約時や面談の際に丁寧な説明を行っている。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	31	0	・原案作成時、本計画の確認の際に面談を実施し、保護者の方とお子様の発達を確認しながら計画を立てている。		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	31	0	・面談時にお子様の発達の状況について評価しながら新たな目標を検討して、保護者の方の同意を求めている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	31	0	・年に数回、また、必要に応じて適宜声をかけて面談・助言等を行っている。		
39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	31	0	・保護者への助言とともに、保護者交流会、父親の会、きょうだい児支援としてのイベントをそれぞれ年2回実施している。		
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	31	0	・いつでも受け入れをして不安や悩みの相談に乗るようにしている。		
41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	31	0	・毎月の通信、年1回センター全体の会報を発行している。		
42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	31	0	・個人情報の取り扱いの同意書をいただくとともに、外部への発信についてはその都度、了解を得るようにしている。		
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	31	0	・お子様とは視覚支援やジェスチャー、その他個々にあった合理的配慮を行い、意思の疎通を図っている。 ・保護者の方々についても言葉だけでなく、文書なども利用しながらわかりやすく伝えるように心掛けている。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	27	4	・運動会、クリスマス会に自治会長等への案内をしている。	引き続き、地域の方々にもセンターに通うお子様や施設への理解を深めてもらえるよう開かれた事業運営をしていきたい。	
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	30	1	・引き渡し訓練をはじめ、各種机上訓練を行っている。 ・保護者の方々にもご協力をいただきながら色々な想定の下での訓練等も実施している。		
46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	31	0	・BCP計画に基づいた毎月の避難訓練や、緊急時を想定した訓練を行い、実施後の検証や次回に向けての訓練計画立て等を行っている。		

保護者への説明等

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		31人中31名回答 公表日 8年 2月27日				
下関市こども発達センター はたふ園						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非 常 時 等 の 対 応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	31	0	・入園前に問診票の記入やアレルギーや発作等があるお子様に関しては面談などで確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	31	0	・医師の診断のもと、指示書に従ってマニュアルを作成、職員に周知し対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	31	0	・安全計画を策定し訓練の実施や、保育環境や遊具などの設備点検を行い安全に配慮している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	30	1	・引き渡し訓練の実施を通じての周知や、日々の連絡帳活用もしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	31	0	・毎月初日の朝礼で前月のヒヤリハットについて報告している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	31	0	・虐待防止委員会を実施するとともにセルフチェックやストレスチェックを実施、そして分析のフィードバックをしながら、意識醸成に努めている。年1回外部講師を始め、内部研修についても内容を工夫し実施している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	31	0	・身体拘束適正化委員会を実施するとともに職員会議で現状や気づきなどの情報共有を図り、適切な取り扱いを行っている。 ・発達に合わせた座位保持しやすや装具の使用等に関しては保護者や訓練担当と協議し説明を行い、同意書で了承を得ている。	